



VIAGGIO IN ITALY



大森愛子のイタリア紀行

AIKO OMORI PRESENTI

ソムリエ。ワインスクール講師。

世界15カ国以上を旅したのち、何だか面白そうなイタリアに移住。
現在、定職・定住地なし。強運のみを頼りに移動生活を続ける。
旅の最大の目的は、それぞれの国の人が何を大切にしているのか
を知ること。

2016 **23** 2.15

天空の町 オルヴィエート

オルヴィエートと聞いてイタリアの白ワインを思い浮かべるのは、かなりのワイン好き、もしくはソムリエ試験に向けて勉強中の方でしょうか。

まろやかな味わいのオルヴィエート産のワインはローマでも人気があり、実際私もスーパーの棚から手にとることの多い白ワインのひとつです。

白ワインの名産地として知られるオルヴィエートは断崖絶壁の丘の上に広がる小さな城塞都市。秋から冬にかけては崖に霧が立ちこみ、外から眺めると町全体が雲の上に浮いているように見えることから、「天空の町」とも称されます。



この町はウンブリア州に位置していますが、ローマから国鉄で一時間とアクセスが良く、日帰りで気楽に観光するにはもってこいの場所。

かつて教皇の隠れ家として栄えた街並は今なお中世の面影を残しており、地下から掘り出したトゥーフォ(凝灰岩)から造られた建物が立ち並ぶ独特の雰囲気はまるで童話の世界。ローマの賑やかさを忘れてしまうほどの魅力です。細い小道が入り組んだ街は夕方になるとオレンジ色の柔らかな光でライトアップされ、ひとときわロマンティック。日本の旅行ツアーでは組み込まれることの少ないオルヴィエートですが、ヨーロッパでは「世界一美しい丘上都市」として人気があるのも頷けます。

2000年以上発見されなかった地底都市

オルヴィエートの町は大地から隆起した凝灰岩の城壁に囲まれており、自然が生んだ城壁が何世紀にもわたってこの町を周囲の世界から切り離し、歴史や遺産を守ってきました。全体が断崖絶壁の丘の上にあるため、駅から市街地までは岩をくり抜いて造られた地中のトンネルを通るケーブルカーで移動します。

中世の面影が色濃く残る旧市街地はただ歩くだけでも楽しいものですが、巨大なパイプオルガンが置かれたドウオモ、深さ62メートルの底まで実際に降りていくことができるサン・パトリツィオの井戸など、観光スポットや見どころもたくさん。中でもおすすめ、時間があればぜひ参加していただきたいのが、オルヴィエートの地下洞窟を1時間で巡るツアーです。驚くべきことに、オルヴィエートの大地の下には地上の町よりも巨大な地下洞窟が張り巡らされており、地上からは想像もつかない世界が地底に広がっています。2500年もの歴史を持ちながら発見されたのは60年前という地底都市は、現在でもガイドの引率による見学が可能。迷路のように入り組んだ洞窟内には、古墳や井戸、ワイン貯蔵庫、オリーブ製造所、動物の飼育小屋など、ほとんどが機能していたはるか昔のままの姿を保っていて、エトルリア人の高度な技術が伺えます。クモの巣のように広がった地下洞窟の探検は驚きの連続。見学中は何度も嘆声ももれてしまいます。



地下洞窟の中。これはハトの飼育小屋だそう。



サン・パトリツィオの井戸。二重螺旋の階段で底まで降りられる不思議な井戸です。

オルヴィエートのレストラン

洞窟の見学もした、井戸の底にも降りた、町の端から端まで歩き回って気になるお店も覗いた。1日あればぐるりと一周できるほど小さな町です、そう何度も足を運んだってもう目新しいものはないはず…それなのに毎週オルヴィエートに行きたくなるのは、この町には美味しいレストランがたくさんあるから。

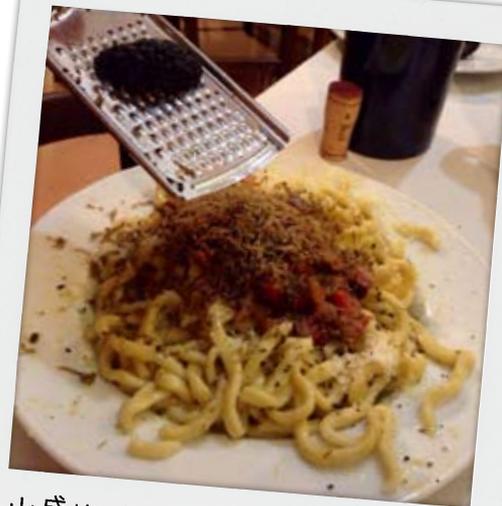
ウンブリア州は食材の宝庫で、オリーブオイルや黒トリュフの名産地として知られています。イタリアの真ん中に位置していて海のない州ですから、山の幸や肉、きのこや野菜類が食卓の中心。中でも肉料理の種類は豊富で、鳩、うさぎ、猪などのジビエ料理が伝統的に食べられています。

オルヴィエートのレストランにも、猪肉の煮込み料理や鳩肉、ウサギ、臓物料理など、他の州では見られない伝統料理がメニューに並んでいます。ジビエ料理には土着品種サグランティーノから造られるしっかりとした味わいの赤ワインや、ウンブリア州のサンジョベーゼから造られるカジュアルなワインを合わせて、料理を主役にするのが楽しい。白ワイン オルヴィエート・クラシコも捨てがたいのだけれど…。まあ、それはお土産にとっておくことにしましょう。

食後、目をつけておいたお土産屋さん立ち寄ると、店内に並ぶのはワインだけでなく、名物の猪のサラミやハム、地元のペコリーノチーズ、乾燥ポルチャーニ茸、トリュフペーストなど美味しそうなものばかり。オルヴィエートを訪れた日はいつも大きな袋を抱えて帰ることになります。



美しい大聖堂もオルヴィエートの
魅惑のひとつ。



山盛りのトリュフをすりおろしたこの州
独特のパスタ、「トリュフのウンブリケッリ」



食材店には豚ではなく猪の脚が
吊るされています。

端から端まで歩いて2kmに満たない小さな町ですが、その存在自体が歴史的遺産物のようなオルヴィエート。住人も旅行者ものんびり穏やかで優しく、イタリアの大きな都市と比べると治安もとても良いので、この町を訪れた1日はきっと素敵な思い出になりますよ。オルヴィエートを訪れる予定ができたらずいお知らせください。私がオルヴィエートで一番好きなレストランをこっそりお教えしますね。

